



Title	Vol.1 No.1
Author(s)	核兵器廃絶研究センター(RECNA)
Citation	RECNAニューズレター, 1(1), pp.1-4; 2012
Issue Date	2012-06-20
URL	http://hdl.handle.net/10069/28789
Right	© 長崎大学核兵器廃絶研究センター

This document is downloaded at: 2019-05-19T19:18:53Z

発刊にあたって

RECNAの初心:「核兵器なき世界」へ状況を動かす。担い手を育てる。

梅林 宏道



長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)から、「RECNAニュースレター」創刊号をお届けする。ニュースレターは四半期ごとにセンターの消息を伝えるための通信である。

創刊にあたって、「核兵器廃絶」という明確な課題を掲げた世界でも例のないセンターが長崎大学に誕生したことの意義と活動方針について、若干の考察を書き留めておきたい。

約2年の準備期間を経て2012年4月1日にRECNAは発足した。この背後には歴史と現在の幸運な出会いがあった。長崎大学医学部の前身は1945年8月9日の原爆投下の爆心地の至近距離にあった。その歴史を継承する長崎大学には「核兵器なき世界」の実現に貢献するアカデミアでありたいとする永年の願望が蓄積されていた。一方で、2006年10月、米国に始まった冷戦期核抑止論を超えようとする動きが、オバマ大統領のプラハ演説(2009年4月)を生み、世界に新しい核兵器廃絶への潮流を生み出した。このような歴史と現在の出会いの中でRECNA設立への協議が始まった。協議が進む中で、RECNAは次の3要素を目的とした組織になった。

- (1)学問的調査・分析を通して核兵器廃絶に資する情報や提言を発信する。
- (2)その過程や成果を生かして学生の主体的な知識、思考、人間の形成に貢献する。
- (3)核兵器廃絶を願う地域市民に開かれたシンクタンクの役割を担う。

核兵器廃絶という研究テーマは、極めて実践的なテーマであるがゆえに、極めてアクチュアルでトランス・フィールド(学際的であるのみならずセクター横断的)な性格をもっている。たとえば、核兵器政策を支配する核抑止論は政治学、軍事論、歴史学、心理学、法学などに跨って論じられ、分析されてきた。それらの知的作業の担い手は学者のみならず、政治家、外交官、ジャーナリスト、活動家、宗教家などに広がり、それぞれのセクターにおける自己形成を基礎にした知的貢献を行っている。

このような研究テーマの特徴を考えると、多くの関係者が共有できる事実情報の基盤を拡大・強化してゆくことが不可欠であろう。その目的をもって、RECNAは核兵器廃絶に関係する幅広い分野にまたがるデータベース(市民データベース)の構築に取り組むことにした。カバーする分野には、国別の核兵器(弾頭と運搬手段)の種類・性能・数・運用政策、核兵器に利用可能な核分裂性物質の保有量、非核兵器地帯、法的文書、国連総会決議、民間からの政策提言文書、自治体の文書、引用文コレクション、一般市民向け書籍のリストと所在地などが含まれ

る。

事実基盤の整備と並行して、核兵器を巡る状況の日進月歩の変化を追跡し、情報発信しつつ、その背後にある力学をとらえることもRECNAの主要な仕事となる。情勢変化の監視と追跡は研究者の知見の最新化に必要なものであるのみならず、市民社会が核兵器廃絶の活動に関与するキャパシティ・ビルディングに資するという重要な意味合いがある。核兵器廃絶の課題に絶えざる変化があることを知ることによって、市民が日常的に介入しうる可能性を主体的に感得することが期待できるからである。

具体的には、RECNAでは、NPT再検討会議及び準備委員会、国連総会第一委員会、ジュネーブ軍縮会議(CD)の追跡をし、発信したいと考えている。追跡と発信の活動は、上記の市民データベースの整備とも関連しながら行われる。活動を理解するうえで必要な先行文書や事実情報を同時進行で整備する。

RECNAの誕生につながった現代の情勢は、核抑止論を超え「核兵器なき世界」へと向かうパラダイム転換の潮流と捉えることができる。しかし、多極化した現代においても冷戦期の思考は根強く続いている。新しい潮流を強めるために、主に3つの分野がいま強調されている。

- (1)核兵器禁止条約または「別々の諸条約の枠組み」
(潘基文国連事務総長、2008年)
- (2)非核兵器地帯の新設や強化(中東、北東アジア、北極海)
- (3)国際人道法を焦点化した核軍縮努力

いずれの課題においても、いかなる国家グループがリーダーとして登場するかが注視される。状況に変化をもたらすためには、新鮮なインシヤチブの登場が必要である。

RECNAとしては、ヒロシマ・ナガサキを経験した日本政府の政策変化を生み出すことに力を注ぎたい。残念ながら日本政府は、核兵器廃絶には消極的で核不拡散に熱心な国と理解されている。この現状が、日本の安全には米国の拡大核抑止力が必要であるという、永年の安全保障政策に起因して生じていることは明らかである。RECNAでは、拡大核抑止政策への代案として北東アジア非核兵器地帯へのアプローチ論を強化することによって、現状を動かすことにチャレンジしたいと考える。

「核兵器なき世界」の達成は緊急の課題である一方、核兵器に関する知識が消滅しないものである以上、その世界の達成と維持には、主体的な若い担い手の育成が不可欠である。RECNAは長崎大学がそのような人材育成の拠点となることに貢献したい。そのためには、講義・演習を通じての基礎知識の形成と国際社会・地域社会との交流を通じての主体形成の両方のアプローチが必要である。

このようなRECNAの活動には多くの分野の方々の協力が不可欠であり、それを心からお願いしたい。

RECNAの最初の本格的な活動として、4月18日に長崎大学坂本キャンパスの良順会館において、開設記念シンポジウムが開催された。会場には、RECNAおよび長崎大学の関係者だけでなく、長崎県副知事(知事代理)や田上富久長崎市長を始めとする地元自治体の関係者、被爆者の方々や、平和団体のメンバー、一般の市民の方々など、多くの聴衆が詰め掛け、RECNAに対する地元の関心と期待の高さをうかがわせるものとなった。

内容としては、中村法道長崎県知事、田上富久長崎市長のメッセージ、土山秀夫RECNA顧問(長崎大学元学長)と梅林宏道センター長による核兵器廃絶およびRECNAの今後の活動に対する展望、および長崎大学の学生を含め、若い世代を中心としたパネルディスカッションなど、核兵器廃絶へ向けて、ささやかながら、確実な一歩を長崎から踏み出そうとするものであった。(内容の詳細については、7月発行予定の報告書もしくはRECNAのホームページ参照。なお、報告書をご希望の方はRECNAまでお問い合わせください。)

また、地元のみならず、多くの国会議員の方々からもメッセージが寄せられた他、アンジェラ・ケイン国連軍縮問題担当高等代表を含め、国際的なメッセージもいくつか受け取ることができた。これはまさしく地元にはっきり根付きながら、同時に世界に対して積極的に核兵器廃絶へ向けての発信を行おうとするRECNAの門出を象徴するような出来事であった。

RECNAの発足は、様々なメディアで好意的に取り上げられたが、国連軍縮局のホームページにおいても、他の軍縮関連の国際的なイベントと並んで、かなりのスペースを割いて紹介されており、正直なところ、我々RECNAのスタッフにとっても、うれしい驚きとなった。ちなみに6月11日-12日にウィーンのCTBT準備事務局で開催された CTBTO Capacity Development Initiative Intensive Seminar (4ページ参照)で同席した国連軍縮局のスタッフは、私が長崎大学からの参加者だと自己紹介すると、即座に「ナガサキ?それならRECNAのスタッフですか?ケイン高等代表もRECNAの活動にはとても関心を持っています。8月の長崎訪問を楽しみにしていますよ」と話しかけてきてくれた。開設記念シンポジウムに寄せられたメッセージが決して単なる社交辞令に留まるものではなかったことをあらためて確認することができた次第である。



RECNAの存在意義を端的に示すならば、それは開設記念シンポジウムのテーマそのままに、「核兵器のない世界を目指して一長崎から世界へ」となる。そこに寄せられた期待と、背負った責任の重みを忘れることなく歩み続けていきたい。

NPT再検討準備委員会モニター

ブログで発信、議連で報告、学内で講座

中村 桂子

ウィーン・長崎、リアルタイムで共同作業

核兵器をめぐる絶え間なく変化する国際情勢を追跡し、情報発信するとともにその背後にある力学をとらえることは、RECNAの主要な活動の一つである。その具体的な取り組みの第一弾として、RECNAは、4月30日から5月11日にウィーン国際センター(オーストリア)で開催された、2015年核不拡散条約(NPT)再検討会議第1回準備委員会をモニターした。

前回、2010年のNPT再検討会議が10年ぶりとなる全会一致の最終合意文書を生み出したことは記憶に新しい。そこには注目すべき「積極的な要素」が含まれていた。すなわち、①核兵器禁止条約、あるいは別々の条約の枠組み、に関する言及、②核兵器の非人道性への懸念と国際人道法遵守の必要性への再確認、③中東決議履行に向けた具体的な行動計画の決定、の3つである。2015年に向けた最初の準備委員会として、加盟国がこれらの「積極的な要素」をいかに積極的に発展させ、2015年とその先への道筋を描いてゆけるかが今回の会議における大きな注目点であった。

RECNAスタッフによるモニター活動は2週間の準備委員会を通じて行われた。ウィーン現地に調漸理事、梅林宏道センター長、中村桂子センター員の3名を派遣するとともに、広瀬訓副センター長らによる日本での支援体制を組み、連日の会議動向やその分析を「RECNA・NPTブログ」(<http://recnanpt2012.wordpress.com/>)上で発信した。ブログにおいては、読者の役に立つような一次情報の提供を心がけた。主要な演説や報告書、提言等を引用した箇所には原文へのリンクを貼り、「議長の実事概要」をはじめ重要文書は可能な範囲で日本語

訳を行った。また、ブログ発信と連動して、2010年再検討会議合意文書、1995年中東決議、国際赤十字・新赤月運動代表者会議決議(2011年)など、NPT関連の基本文書をRECNAウェブサイトの市民データベースに整備した。



ブログ報告は準備号(第0報)から第10報まで11回にわたって行った。第0報のタイトルに掲げた通り、そのモットーは「事実を正確に、ライブに、市民目線で」である。活動の成果は、ブログ発信だけでなく、記者発表(5月16日、長崎大学内)や国会議員への報告会(5月17日、後述)、学内報告会(5月31日、後述)などを通して、政策形成、世論形成、ネットワーク形成に活用されている。

こうしたモニター活動は、来年の第2回準備委員会(2013年4月22日~5月3日、ジュネーブ)にも継続される。例年秋に開かれる国連総会第一委員会に関しても可能な範囲で取り組む予定である。また、さらなる読者層の拡大をめざし、ブログの読みやすさなどにもいっそう工夫を重ねることを検討している。〈行動する研究所〉RECNAを特付ける取り組みの一つとして、引き続き注目していただきたい。

国会議員への報告会をPNNDと共催

5月17日、RECNAは「核軍縮・不拡散議員連盟(PNND)」との共催で、NPT再検討会議準備委員会の報告集会を衆議院第2議員会館(東京都千代田区)で行った。PNNDは、80か国の800人以上を擁する核軍縮・不拡散に関心を持つ国会議員の世界的ネットワークである。その日本支部であるPNND日本には超党派の56名の国会議員が参加している(2012年4月23日現在)。PNND日本については、同サポートグループのウェブサイト <http://www.pnnd.jp/index.html> に詳しい活動内容が紹介されてある。

河野太郎衆議院議員(PNND日本会長)による開会挨拶、田上富久長崎市長からのメッセージ(代読)に続き、中村桂子センター員が準備委員会について、PNND東アジアコーディネーターを務める梅林宏道センター長がPNND国際ネットワークのウィーンでの活動について、それぞれ報告を行った。続いて、平岡秀夫衆議院議員(PNND日本会長代行、PNNDグローバル評議員)がPNND日本の活動について報告した。PNND日本参加議員有志による「北東アジア非核兵器地帯促進ワーキングチーム」の創設といった新しい動きに参加者の注目が集まった。最後に、調漸理事が閉会の挨拶を行った。

参加した国会議員は超党派の18名(うち5名は代理出席)にのぼり、日本政府の姿勢や国際的な評価を含め、活発な質疑応答が行われた。また、報告会は一般公開であったため、メディア数社の他、首都圏の市民団体の関係者を中心に一般からも多くの参加があった。

市民の願いである核軍縮を政策に反映させるためには、国会議員のリーダーシップが不可欠である。今後も引き続き、RECNAは核軍縮に取り組む国内外の国会議員の活動に注目し、可能な支援を提供してゆく予定である。

入門講座として学内で報告会

RECNAの掲げる目標の一つが、核兵器の問題に主体的にかかわる次世代の育成である。長崎においては、高校生一人署名や高校生平和大使の活動など、高校生を中心とした平和活動が活発である一方、大学生の主体的取り組みがあまり見られないという現状が指摘されてきた。



RECNAの存在を学内に周知するとともに、大学生の意識啓発につながることをめざし、5月31日、RECNAは「そうだったのか!!世界の核兵器～NPT再検討会議準備委員会報告会」を文教キャンパス内で開催した。当日は、RECNAスタッフとともにNPT準備委員会に参加した韓国人の金マリア氏も登壇し、核問題に取り組むようになった自らの経緯やウィーンにおける世界の若者の活動について報告を行った。モデレーターを務めた宮崎美緑RECNAスタッフが「核問題の素朴な疑問」を投げかけ、それに金氏が答えてゆく、というユニークな対話形式のセミナーには、高校生、大学生を含むおよそ90名が参加した。終了後に回収されたアンケートの多くには、「私たちにもできることはある!」という同世代の若者に向けた金氏の訴えへの共感と、今後のRECNAへの期待が強く示された。

また、RECNAの活動を共に担う「RECNAサポーター」の登録要請に、長大学生を中心に多くの反響があったことも付け加えておきたい。(RECNAサポーター募集については4ページを参照)

教員紹介

専任教員



梅林 宏道

センター長 教授
1937年生まれ。東京大学大学院博士課程修了。工学博士。1980年、大学教員を辞し、平和運動家・研究者として国際的に活動、NPO法人ピースデポを設立。



広瀬 訓

副センター長 教授
専門は国際法、国際機構論。国連開発計画(UNDP)プログラム担当官、ジュネーブ軍縮会議日本政府代表部専門調査員、宮崎公立大学教授等を経て現職。



三根 真理子

教授
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科附属原爆後障害医療研究施設にて原爆被爆者のデータベース構築と被爆者の健康に関する調査・研究を長年行ってきた。



中村 桂子

准教授
本年4月のRECNA開設にともない、長崎大学に赴任。3月までは特定非営利活動法人ピースデポ(横浜)の事務局長として、核軍縮・不拡散問題に取り組んでいた。

兼任教員



姫野 順一

教授
1947年生まれ。経済学博士(九州大学)。水産・環境科学総合研究科教授。附属図書館長。経済思想史・環境経済学を専攻し、「平和の知性史」に関心を寄せている。



全 炳徳

教授
専門は情報教育及び写真測量。原爆の負の遺産から学びつつ「戦争の記憶をどう継承するのか」をテーマに、小中学校での平和教育と実践に取り組んでいる。

客員教員

朝長万左男 教授・西田充 准教授

顧問

土山秀夫 元長崎大学長・黒澤満 大阪女学院大学教授

RECNA活動ログ

2012年4月1日～2012年6月30日

- 4月1日(日) ■核兵器廃絶研究センター 設立
■ウェブサイト立ち上げ <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>
- 4月4日(水) ■核兵器廃絶研究センター銘板上掲式
- 学長、知事、市長、センター長以下スタッフが参加
- 式後、来賓及びメディアによるセンター内見学
- 4月9日(月) ■RECNAによる被ばく者団体表敬訪問
- 調理事、梅林センター長
■「証言の会」広瀬代表委員、森口事務局長がセンター訪問
- 4月18日(水) ■RECNA開設記念シンポジウム【詳細は2ページ】
「核兵器のない世界を目指して-長崎から世界へ」
- 場所:長崎大学医学部良順会館 180名が参加
- 4月29日(日) ■NPT再検討会議準備委員会をモニターするブログ開設
- 第0報発信 <http://recnanpt2012.wordpress.com/>
- 4月30日(月) ■NPT再検討会議準備委員会のモニター【詳細は2～3ページ】
～5月11日(金) - ウィーンと長崎で連携して取り組む ブログ第1報～第10報
- 5月12日(土) ■第1回長崎平和宣言文起草委員会
- 土山顧問、朝長客員教授 参加
- 5月16日(水) ■NPT再検討会議準備委員会のモニター活動の報告記者会見
- RECNA主催
- 調理事、中村准教授
- 5月17日(木) ■2015年NPT再検討会議第1回準備委員会(ウィーン)報告集会
【詳細は3ページ】
- RECNA/PNND日本の共催 場所:第2議員会館(東京)
- 調理事、梅林センター長、中村准教授
- 5月22日(火) ■原爆写真:米国立公文書館調査の報告会
- RECNA・平和多文化センター・市民グループなど共催
- 全教授
- 5月27日(日) ■核兵器廃絶地球市民長崎集会実行委員会 総会
- 梅林センター長が着任挨拶
- 5月30日(水) ■第29回非核宣言自治体協議会研修会
- 広瀬副センター長が講演
「絵本で読む平和と軍縮」 場所:長崎ブリックホール
- 5月31日(木) ■「そうだったのか!!世界の核兵器
—NPT再検討会議第1回準備委員会報告会」【詳細は3ページ】
- RECNA主催
- 場所:教養教育講義棟102番教室 90名が参加
- 6月4日(月) ■RECNAサポーター活動開始
- 登録学生が初めてRECNAを訪問
- 6月7日(木) ■PNND日本 北東アジアNWFZワーキングチーム事務局会議
- 梅林センター長 参加
- RECNAがPNND日本北東アジアNWFZワーキングチームの
助言団体に就任
- 6月9日(土) ■第2回平和宣言文起草委員会
- 梅林センター長、土山顧問、朝長客員教授 参加
- 6月11日(月) ■CTBTO(ウィーン)のセミナー
～6月12日(火) 「Capacity Development Initiative Intensive Seminar」
- 広瀬副センター長 参加
- 全学モジュール「核兵器のない世界を目指して」の
意図と概要を紹介
- 6月14日(木) ■RECNAサポーター顔合わせ会
- 高校生2名を含む18名の学生サポーターが初集合
- 6月21日(木) ■RECNAサポーター勉強会
- 世界の核兵器とCTBTOについての勉強会
- トート事務局長をお迎えする企画・運営の
RECNA学生サポーターズ結成
- 6月24日(日) ■地球市民集会長崎実行委員会主催 NPT準備委帰国報告会
- 梅林センター長、中村准教授 講演
- 6月28日(木) ■第1回 RECNA運営委員会

お知らせ

- 7月28日(土) **北東アジアの非核化へ向けて**
時間:午後1時～5時
場所:広島国際会議場 地下2階 ヒマワリ
共催:広島市立大学広島平和研究所
中国新聞社ヒロシマ平和メディアセンター
長崎大学核兵器廃絶研究センター
- 梅林センター長 参加
- 8月10日(金) **軍縮・不拡散教育グローバル・フォーラム**
～8月11日(土)
時間:午前9時45分～午後5時
場所:長崎原爆資料館ホール
主催:外務省・国連大学
協力:長崎市・長崎大学
- 梅林センター長、広瀬副センター長、
中村准教授 参加
- 8月10日(金) **CTBT機関トート事務局長、長大生と語る
—私たちにできることは?—**
ゲスト:ディボル・トート
(CTBT機関事務局長)
時間:午後4時～6時
場所:長崎大学 医学部 良順会館
主催:長崎大学・RECNA
後援:長崎県・長崎市
企画・運営:RECNA学生サポーターズ
- 8月22日(水) **核軍縮と国際人道法**
講師:レベッカ・ジョンソン
(英アクロニム研究所所長)
時間:午後6時半～8時半
場所:長崎原爆資料館ホール
共催:地球市民集会長崎実行委員会・RECNA

RECNAサポーター募集!!

これからたくさんの活動を、多くの皆さんと力をあわせて一緒に創っていきたくと考えています。そんなく仲間を「RECNAサポーター」として募集します。

国際的な視野を広げたい方、研究の幅を広げたい方、イベントのマネージメントに興味がある方・・・ぜひご登録ください。学生・一般を問いません。

以下はサポート内容の例です。経験はないけど、やってみたい、という方も大歓迎です。

- 講演会、シンポジウムなどイベントの企画・運営
- 翻訳/通訳
(英語⇄日本語が中心ですが、韓国語、中国語、その他の言語も大歓迎)
- 出版物やウェブサイトの制作・編集
- データ収集・整理、研究補助

ご関心がある方は、氏名・連絡先を明記の上、電話、またはE-mailにてご連絡ください。ホームページからも詳細をご覧ください。

【RECNA事務局】 Tel. 095-819-2164

E-mail. recna@ml.nagasaki-u.ac.jp



長崎大学核兵器廃絶研究センター

第1巻1号 2012年6月20日発行

発行 長崎大学核兵器廃絶研究センター
〒852-8521 長崎市文教町1-14
Tel. 095-819-2164 Fax. 095-819-2165
E-mail. recna@ml.nagasaki-u.ac.jp
<http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

印刷 インテックス

© 長崎大学核兵器廃絶研究センター